

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 28 年 7 月 7 日	
所属部局・職	野生動物研究センター・修士課程学生
氏名	田島夏子

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
愛知県犬山市
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
PWS 動物園・博物館実習
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 28 年 6 月 25 日 ~ 平成 26 年 6 月 28 日 (4 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
公益財団法人日本モンキーセンター
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
本実習の目的は、講義、実習を通じて、PWSの3つの出口のひとつである「博士学芸員」の仕事についての理解を深めるとともに、一般の方々により野生動物についての知識を深めてもらうコミュニケーションの実践の場となることを目的とした。具体的には、日本モンキーセンターにて、飼育実習、標本実習などを通じて現場の仕事に触れること、また科学コミュニケーション実習を通じて一般の方々へ広く科学的知識の共有を試みること、展示学概論や基礎セミナー等を通じて、博物館の重要性を学ぶことを目的とし、実習が行われた。
本実習の日程は以下の通りである。
6/25 レクチャー(伊谷園長)、園内見学(綿貫さん)
6/26 レクチャー(高野さん)、園内見学&来園者調査実習(赤見さん)、日曜サロン(岡本先生)、科学コミュニケーション実習&レクチャー(大淵さん)
6/27 獣医見学(岡部さん)、展示学概論(綿貫さん)、標本実習(新宅さん)
6/28 飼育実習(北園)、JMC 霊長類基礎セミナー(早川さん)
1日目は、伊谷園長から、日本モンキーセンターの歴史と、日本霊長類学とその野外調査の系譜についての説明を聞いた。モンキーセンターは、博物館登録されている日本で唯一の動物園であり、その登録の過程や公益財団法人化への道のりは様々な苦労があったことを伺うことができた。伊谷先生が園長に着任してから、各部署のスタッフに生息地研修に参加してもらうようにしたこと、各スタッフから自主的に様々な試みを実践して、より良い施設にしていこうとしていることなどを聞き、その成果が表れるのが楽しみであると思った。
その後、綿貫キュレーターとともに園内見学をした。モンキーセンターの各施設において、新しい施設は以前の施設よりも改善された点があるが、昔からの施設はその問題点が綿貫さんの説明を聞き、実際に見学してみると浮き彫りになってきて勉強になった。また、最近設立されたばかりの違法取引されたスローロリスの保護施設である「ロリスコンサベーションセンター」も見学した。動物園の飼育用に取り、交配された腫のみでなく、そのような状況にある種も保護していくことが動物園の使命の一つであると感じた。
2日目は、まず高野キュレーターから博物館としての動物園の役割についての講義を聞いた。博物館には、資料採集、調査研究、展示、教育という「4つの柱」というものがある。資料としては、動物園においては、生きた動物や標本などの一次資料はもちろんのこと、写真や飼育記録などの二次資料も重要である。また、研究者にとっては、調査、研究で物事を明らかにすることはもちろん大事であるが、研究でわかったことをアウトプットすることでコレクションに価値が高まる、というアウトプットの重要性についての話が印象深かった。

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

その後、赤見キュレーターとともに、来園者調査実習をした。これは、園内の飼育動物の前で来園者の反応を観察するという内容である。私はケナガクモザルの展示の前で観察を行った。予想では来園者の滞在時間は2分ほど、見学の際は“クモ”ザルという名前の由来や、尾の先に毛がないことなどが多く注目されると考えた。しかし、実際はじっくり観察していた人、通過するだけの人をまとめて28組の来園者がクモザルを観察していた。平均滞在時間は38秒と、予想よりもかなり短かった。見学時の話題は、「尾がすごい」「手足が長い」「動きがなめらか、器用」など、予想と近いポイントについて注目していることが多かったが、ぱっと見ただけでわかる印象について述べていることが多く、尾の先の毛の有無まで気づくほど細かく観察している来園者は少なかった。種名や説明を記載している看板には細かい説明が書いてあるが、そこまで目を通している来園者は少なく、もっと目に留まりやすく、一目で言いたいことが伝わる展示物があってもよいのではないかと感じた。

午後は、岡本先生の寄生虫についての日曜サロンを聞いたのち、大淵キュレーターから、科学コミュニケーション実習を受けた。この実習では、飼育動物について、来園者に一つ自分の伝えたいことを伝えてコミュニケーションをとってみる、ということを目的とした。私は、引き続きクモザルの尾について説明しようと試みたが、来園者があまり訪れなかったため、フランソワルトンのコドモの体色の違いについての説明に切り替えた。ここでも、通り過ぎる来園者が多かったため、自ら檻の中をのぞいて興味を持ってもらおうとしたり、「コドモ見えますか？」と尋ねたり試行錯誤をしながら説明を行うと、「おもしろいねー」と言ってくれる来園者も多く、やりがいを感じた。知識を押しつけるのではなく、うまくコミュニケーションをとることが重要であると感じた。

3日目はまず獣医見学を行った。この日の手術は、マンドリルの避妊手術と、カニクイザル、ワオキツネザルの抜糸であった。施術前に、麻酔についての説明を受けた後、手術を見学した。避妊手術は、背中を切ってシリコン製のホルモン剤を皮下にいれ、着床を抑制する。まだしがみついてくる子供がいるメスであったので、コドモがいじって開かないよう、傷口を溶ける糸と溶けない糸の両方で縫うなどの臨機応変な対応が必要であると学んだ。

午後は、展示学実習を受けた。動物の配置においても、分類学的テーマや動物地理学的テーマなど、普段何気なく訪れる動物園の展示には様々な配慮があることを学んだ。

その後は新宅キュレーターから、標本学実習を受けた。まず、ワオキツネザルの死亡個体の解剖の見学をした。見慣れているサルがどんどん骨と肉と皮に分解されていく光景はとても興味深かった。また、骨格のみとなったヤクザルの骨の分類分けも行った。骨を実際に触ると形や構造がわかり勉強になった。

4日目は、飼育実習を行った。私は北園のアヌビスヒヒのエンリッチメントを行った。短い時間での作業であったが、コンクリートの猿山の中に過密度で飼育されているヒヒの放飼場に、竹の中にペレットを入れたフィーダーを設置した。アヌビスヒヒは新規物を怖がらないので、入れ代わり立ち代わりフィーダーを触りにくる個体を観察することができ、エンリッチメントの役割は果たせたかなと感じた。業務時間の間に、餌やり、掃除、観察などをこなさなくてはならない飼育員の仕事は、とてもハードであるがやはり一番動物に近い現場であるため、やりがいがあるだろうと感じた。

午後は、早川キュレーターによる野外調査についての基礎セミナーを聞いた。野外調査ではまず動物の観察はもちろん大事であるが、その生息地の環境の観察や、現地の人々、研究者同士の交流も大事である。理解しているつもりだが、忙しくなると目の前の動物の行動にのみ集中してしまいがちであるので、頭に刻んでおこうと思った。

4日間の実習では、現場での飼育実習から、博物館学の講義まで、幅広く博物館、動物園での博士学芸員の仕事やその意義を学ぶことができ、非常に有意義な実習であった。将来は知識や経験を生かして一般の人にわかりやすく野生動物の魅力を伝えたいと考えているため、今回学んだことを生かしていきたいと思う。

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書
(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



写真1. 獣医見学



写真2. 標本学実習 (解剖見学)



写真3. 標本学実習

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



写真4. 飼育実習（エンリッチメント）

6. その他（特記事項など）

本実習においてご指導いただきました日本モンキーセンターの伊谷園長、高野キュレーター、綿貫キュレーター、大淵キュレーター、赤見キュレーター、新宅キュレーター、早川キュレーターに感謝いたします。また、本実習はPWSプログラムの支援によって行われました。ありがとうございました。